

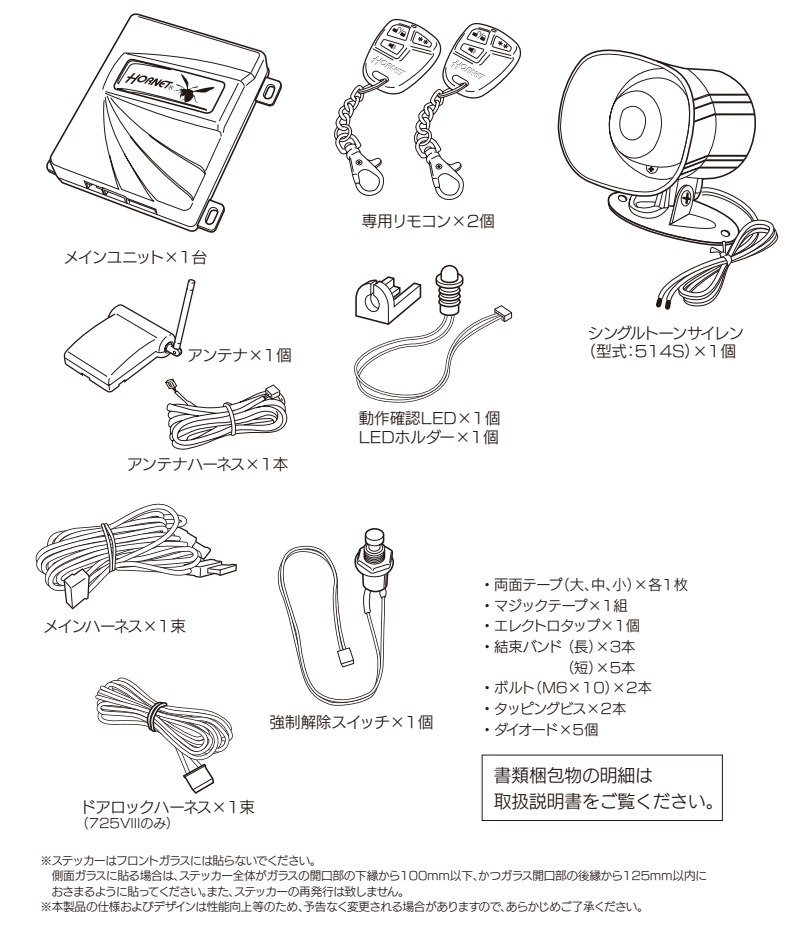
取付店の方は必ずお読みください

ホーネット 725VⅢ/728VⅢ取付説明書

取付けミスは誤作動や車両の電装品に影響を与える原因となります。車両電装の知識不足による誤った配線方法により車両の故障、故障が発生しても当社では一切の責任を負いかねます。

KATO-DENKI
GI-5395

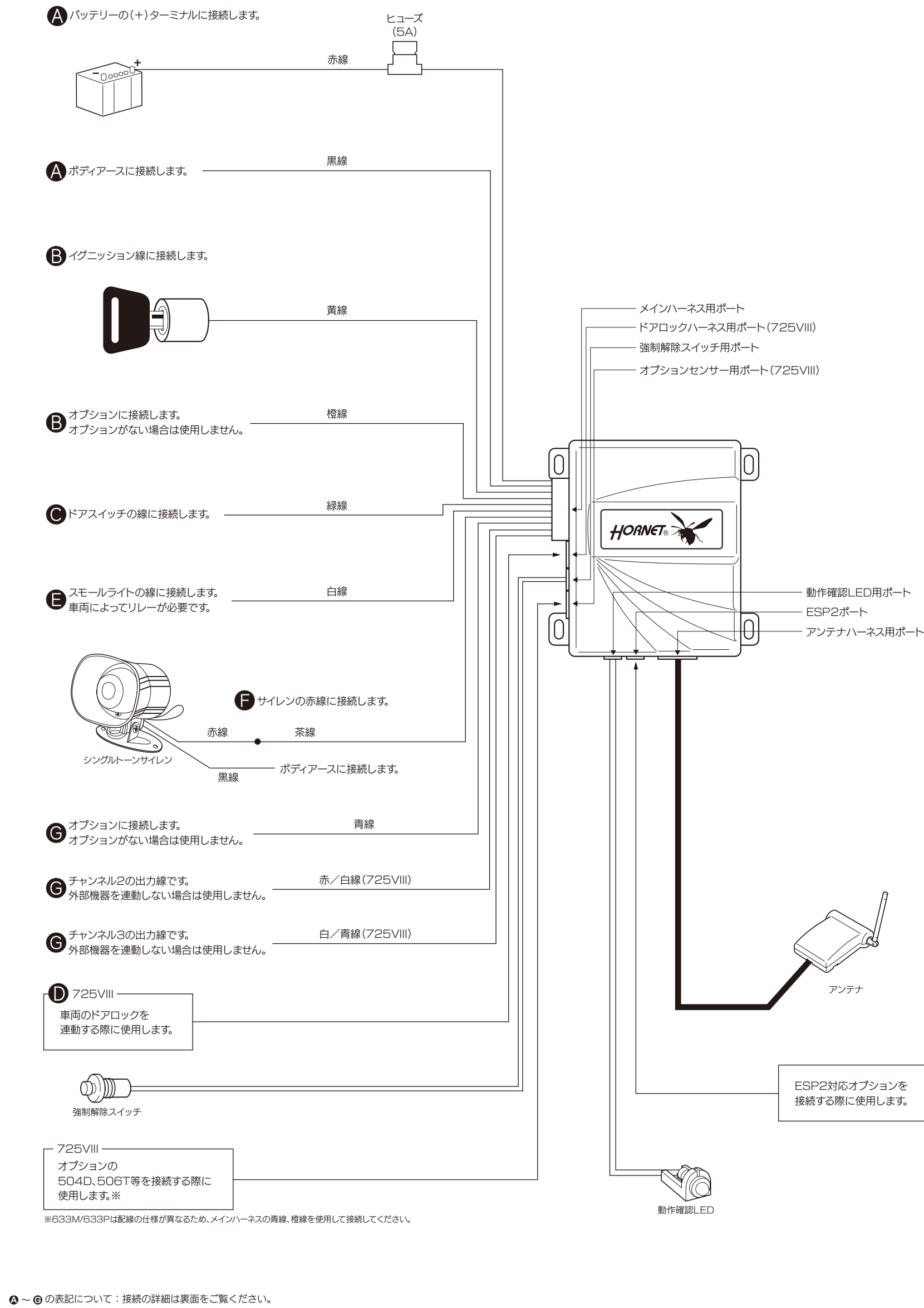
725VⅢ/728VⅢの梱包物 (取付けの前に必ずご確認ください)



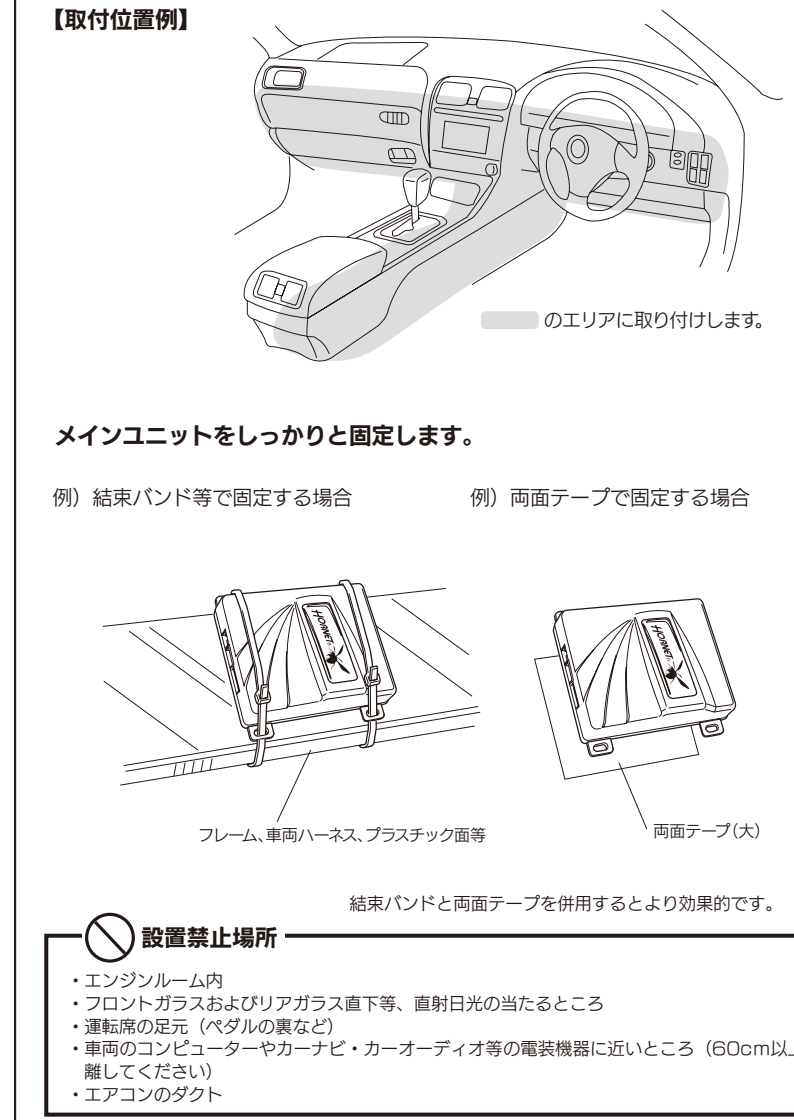
- ・両面テープ(大、中、小)×各1枚
- ・マジックテープ×1組
- ・エレクトロタップ×1個
- ・結束バンド(長)×3本(短)×5本
- ・ボルト(M6×10)×2本
- ・タッピングビス×2本
- ・ダイオード×5個

書類梱包物の明細は取扱説明書をご覧ください。

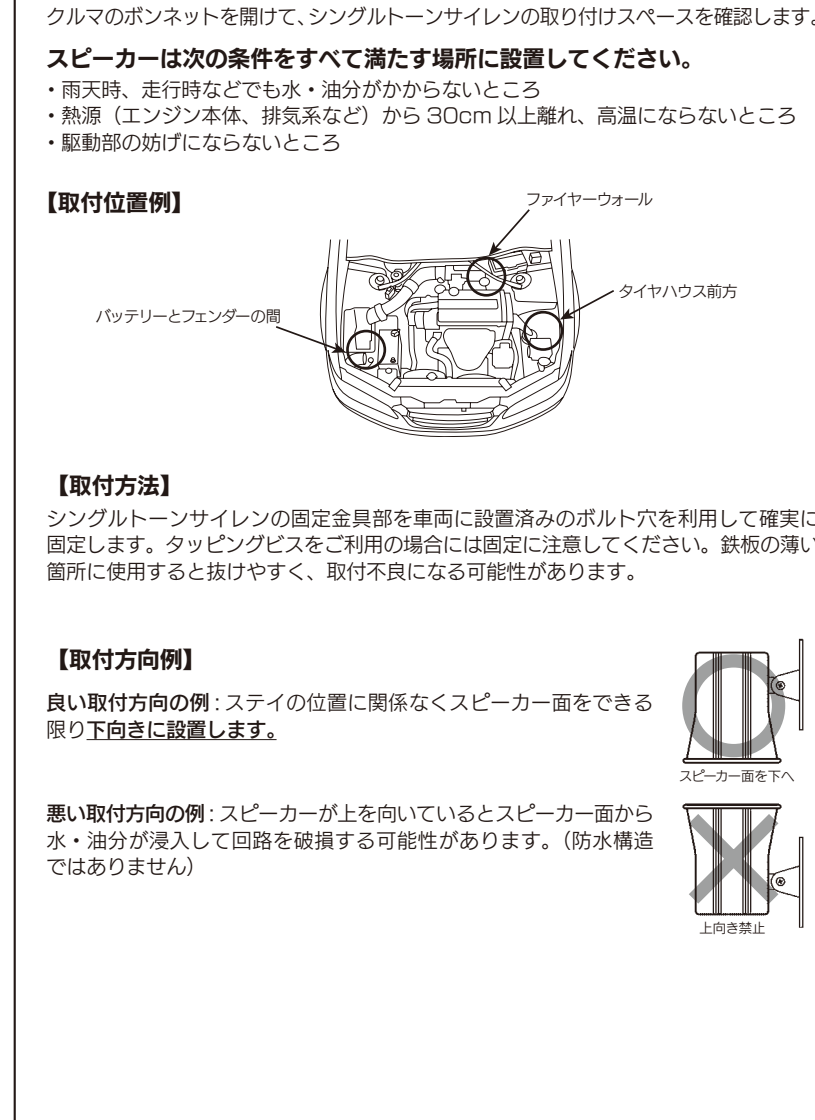
接続全体図



メインユニットの取り付け



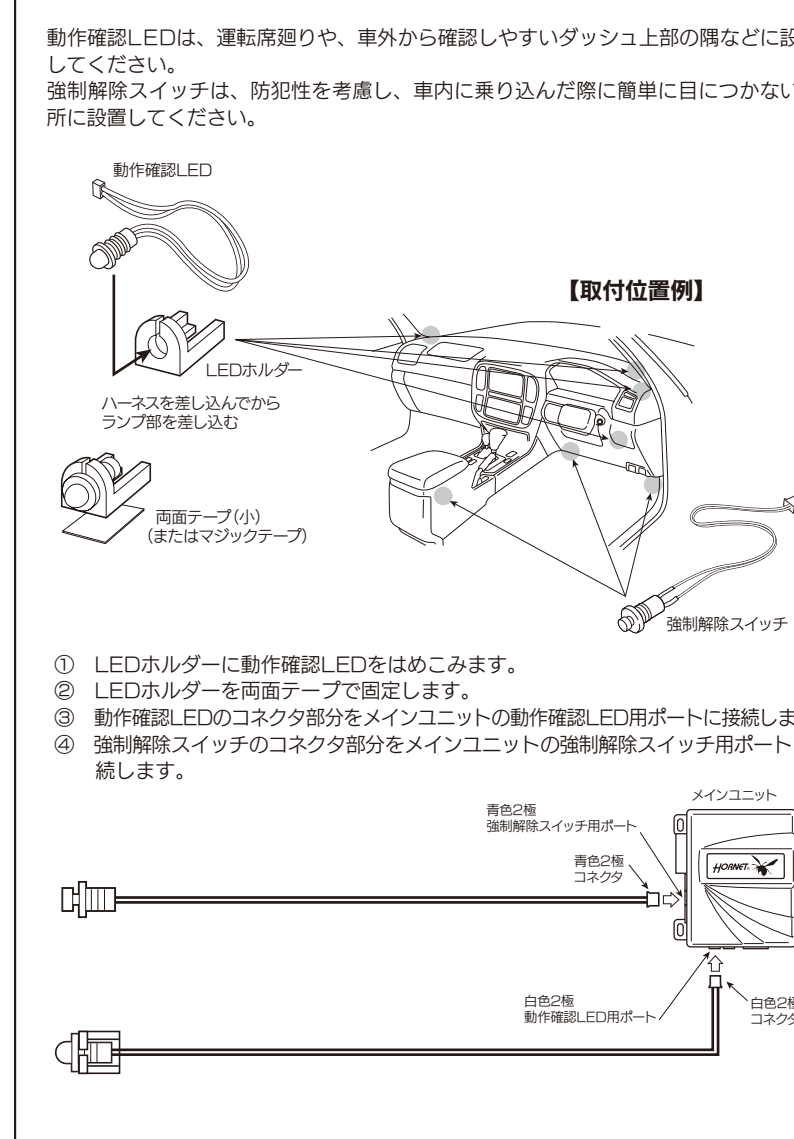
シングルトーンサイレンの取り付け



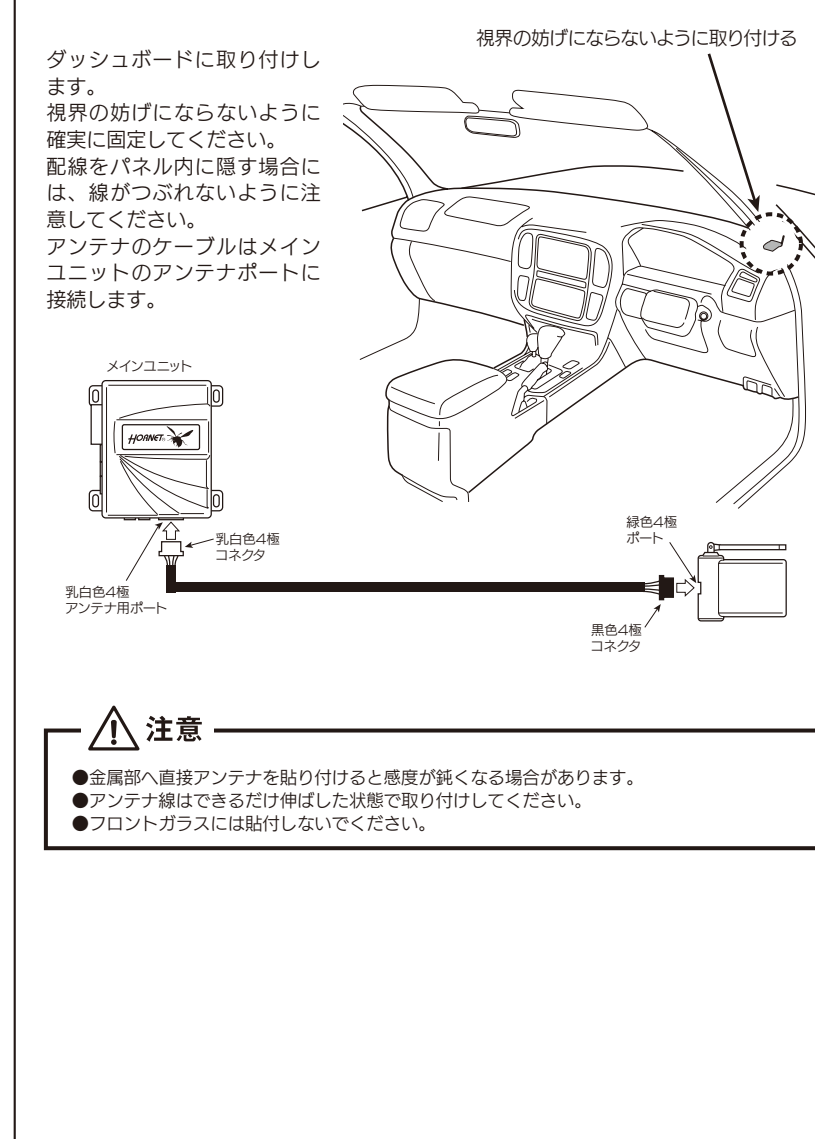
取付上および安全上の注意

- 必ずお読みください**
- 国産車限定 日本国内メーカーの車両に対応しています。並行輸入車、外国車への取り付けサポートは行っておりません。
 - 本製品の衝撃センサーは取り付け位置によって感度が大きく変わります。
 - 本製品は、車両盗難、車上狙い等を抑制するものであり、完全に防止するものではありません。
 - 当社では製品の検査、修理時の代品貸し出しなどは一切行っておりません。また、検査、修理時に発生した工賃等の諸費用はお客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。
 - 本製品はアナログ制御になります。コンピュータによるデジタル多重電送通信への接続はできません。接続をした場合は本製品のみならず車両の機器を破損する恐れがあります。
 - 車種により本製品の接続が不可能な場合があります。
- 危険**
- 知識のない方が取り付けを行なうと車両、システムの故障・損傷のみならず、人体にも危険が及ぶ恐れがあります。
 - DC12V車両専用。24V車両には装着できません。
- 警告**
- エアバッグ(SRS)装備車、ボディコンピュータ、その他特殊な装置を装着している場合にはバッテリーの配線やヒューズを抜くなどして電源供給を止めないように留神してください。電源が切断されると車両側が故障し機能しなくなる場合があります。また、誤作動により人身事故につながる恐れがあります。
 - メインユニットおよびオプション製品の取り付けの際は必ずエンジンを停止して換気のよい場所で行ってください。排気ガスが充満して危険です。
 - 各部品をパネルなどに取り付けの際は、他の機器に影響を与えない場所に設置してください。特に駆動部やブレーキパイプ、ホース類には設置しないでください。
 - 必ず正しい取り付け、配線を行ってください。取り付けおよび配線を誤ると、車両の装置、機器類を破損あるいは損傷する恐れがあります。
 - メインユニットやオプション製品を水、湿気、熱、湯気、ほこり、油などの多い場所に保管、設置しないでください。火災、感電、故障などにより死亡やけがに及ぶ恐れがあります。
- 注意**
- メインユニットから各種オプション部品の配線、接続を行なった場合には保護のため貫通口に必ずゴムフッシュなどを使用してください。また、電線保護のためコルゲートチューブ(コンジットチューブ)などをご使用ください。
 - SRSエアバッグや盗難防止機能付ラジオを装備した多くの車両はバッテリーが外されたことをメモリーする機能を有しています。このメモリー状態を解除する場合は専用のIDコードが必要となり、その車両を購入したディーラーでなければ解除できません。
 - 取付終了後、必ず取り付けをした機能のすべてをテストしてください。
 - 車両のバッテリーが弱っている場合など車両本来の機能に不備がある場合には、システムが正常に作動しないことがあります。常に車両の整備が行き届いた状態での取り付けを行ってください。
 - 使用しない配線は必ず絶縁処理を行ってください。
 - エンジンルームから車両へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前であらかじめ通してください。

動作確認LED/強制解除スイッチの取り付け



アンテナの取り付け



A 電源線の接続

黒 (-) 電源 (ボディアース)

メインユニットのアース線 (黒線) を市販のくわ型端子を使用して車体のボディアースにボルト止めします。車両に装着済みのボルトなどを利用すると便利です。

注意

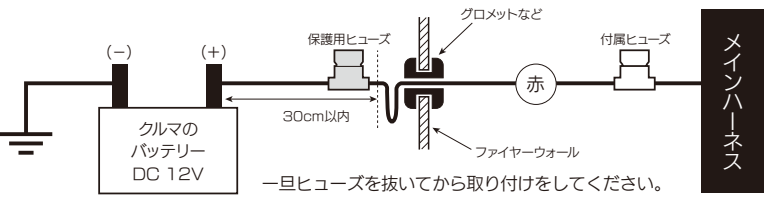
テスター等でボディアースである事を確認の上、接続してください。

赤 (+) 電源 (+12V)

電源接続をする前に、一旦メインハーネス付属のヒューズを抜いてから接続を行ってください。赤線、黒線の2本の線が接続し終わった際にヒューズを差し込みます。取り外したヒューズは、なくさないように保管してください。

バッテリーの (+) ターミナル、又はイグニッションハーネス内の常時 (+) 12V 電源線等に接続します。

例) 車両のバッテリーの (+) ターミナルに接続する場合
 バッテリーから30cm以内に保護用のヒューズ (メインハーネスの赤線に付属のヒューズと同じ容量のヒューズ) を入れてください。



注意

- 車両のボディコンピューター等の設定がリセットしてしまう可能性がありますので、バッテリーを外す際には、バックアップをとるなどの処理をしてください。
- メインハーネスに付属のヒューズは、メインユニット保護用です。この目的以外には、使用しないでください。
- 電源をオーディオなどと同様の部分から取得した場合、電源容量が足りなく動作しなかったり、ノイズなどの影響を受けることがありますので、避けてください。
- エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。

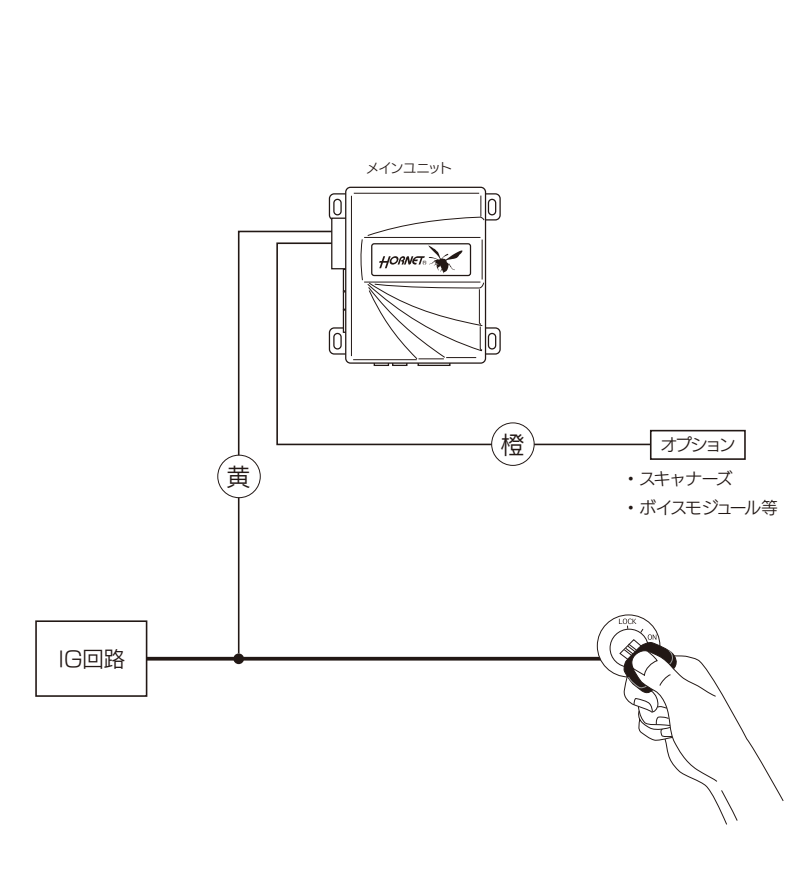
B イグニッション線およびシステム作動出力線の接続

黄 (+) イグニッション入力

イグニッションキーを「ON」の位置にしたとき、および「ST」の位置にしたときに、(+) 12V を示す線に接続します。

橙 (-) 500mA システム作動出力

システム作動中に連続したアース信号を出力します。オプションがない場合には絶縁処理をしてください。



C ドアトリガー線の接続

緑 (-) ドアトリガー入力

車両のドア (テールゲート/ハッチ含む) が開いたときに、ボディアースと導通する (またはOV付近まで電圧降下する) 配線に接続します。接続先は主に車両のドアカーテジスイッチ (ドアスイッチ) になります。

＜見つけ方＞

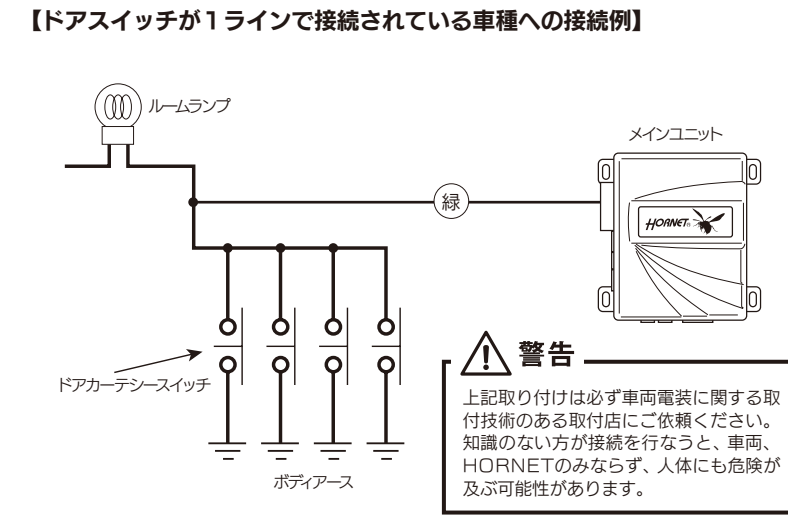
- ① 計測器 (テスター) を DC または DCV にセットしてください。
- ② (-) 検針をボディアースに接続します。
- ③ (+) 検針をテストする線にあてます。

ドア開、ルームランプ消灯の状態からドアを開け、ルームランプ点灯と同時にOV付近まで電圧降下する配線を探します。

- ④ 見つけた線が全てのドアを開けても信号が取得できることを確認します。

注意

- 各ドアのドアカーテジスイッチが独立している場合には、ドアトリガー線 (緑線) を分岐する必要があります。分岐する場合は配線全てにダイオードを入れてください (5個同梱)。
- ドアカーテジスイッチがないドアには取り付けできません。
- 残照灯付車の場合には、残照灯が消える前にセキュリティを動作させると、センサーレポート音が鳴ることがあります。ただし、残照灯が消えてから5秒後に自動的にドアトリガーは復帰しますので、センサーとして問題はありません。



D ドアロック出力線の接続 (725VⅢ)

青 (-) センサー入力線

オプションセンサーやスイッチ等から (-) 信号を受け取り警報を発生します。オプションセンサーを動作させる場合にも、必ず絶縁処理をしてください。取り付け方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

※出荷時は警報が鳴りますが機能設定項目10の設定にて警報ではなく警告を鳴らすことができます。

マルチプレックス対応オプションセンサーとの接続 (725VⅢ)

マルチプレックス対応のオプションセンサーを接続する場合は、オプションセンサーの4極コネクタを本製品のセンサーポートに差し込みます。配線の取付方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

チャンネル出力線の接続 (725VⅢ)

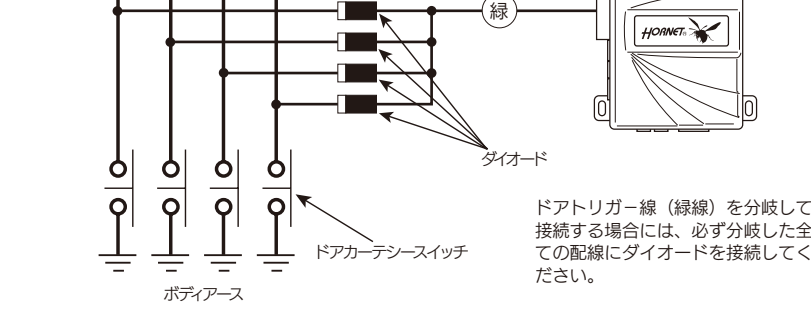
赤/白 (-) 200mAチャンネル2出力

本製品がチャンネル2信号 (リモコンの▶ ボタンを3秒以上押した状態で発信される信号) を受信するとアース信号が出ます。信号はメインユニットがチャンネル2信号を受信している間出力されます。電気式のトランクリリース等の制御に使用します。信号のアース電流許容値は最大200mAです。配線先によってはリレーが必要になります。

白/青 (-) 200mAチャンネル3出力

本製品がチャンネル3信号 (リモコンの▶ ボタンと▶ ボタンを同時に1秒以上押した状態で発信される信号) を受信するとアース信号が出ます。信号はメインユニットがチャンネル3信号を受信している間出力されます。専用エンジンスターター (別売) 等に使用します。信号のアース電流許容値は最大200mAです。配線先によってはリレーが必要になります。

【トランクリリースをする場合の配線方法例】
 オプションの525Tリレーを使用した場合の信号系統図



ヒント

ダイオードって何?

ダイオードとは、電流の流れを一方通行にするための電子部品です。接続する方向を間違えると電流が流れなくなり、正常に作動しなくなります。電流は左の図のように、帯のような印のある方向に向かって流れます。ドアトリガー線を配線する場合、複数に分岐した時には必ずダイオードを正しく接続してください。

注意

5個目のリモコンを設定した場合には、最初に設定されていたリモコンのIDコードが押し出されます。

●リモコンを紛失した場合は、リモコンのすべての登録を抹消するため、残りのリモコンで4回同調を行ない、紛失したリモコンのIDを押し出してください。第三者のリモコンでは本製品のコントロールができなくなります。

●それぞれの手順が5秒以内に行なわれない場合は、同調されないまま設定を終了します。

E ライトフラッシュ線の接続

白 (-) ライトフラッシュ出力

この線を接続するとスモールライトを点滅させ、HORNETの作動状況の確認や威嚇ができます。スモールライトが (-) コントロールの場合には直接ライトスイッチの信号線に接続します。

例 (-) コントロールの場合の接続方法

注意

●モーターを直接動かしてロック/アンロックを行なう場合など、上記取り付けタイプに該当しない場合には別途オプション (451M、525T等) が必要になります。取り付け方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

タイプC (極性反転方式)

●ドアロックをコントロールするスイッチ (ドアロックスイッチ) が無い場合。
 ●運転席にドアロックアクチュエーターがある場合。
 ●集中ドアロック機能がある場合。

●451Mの緑/黒線と青/黒線が車両ドアロックアクチュエーター側になります。反対に取り付けた場合は、製品故障および車両火災の原因になりますので、絶対にしないでください。
 ●本製品には、ドアロック機能 (マイナスコントロール) が内蔵されているため、451Mのドアロック信号ハーネスを本製品のセカンドコネクタに差し込みます。

F サイレン線の接続

茶 (+) サイレン出力

配線を室内に引き込んだ後、シングルトーンサイレンの赤線をメインユニットの茶線に接続します。シングルトーンサイレンの黒線は市販のくわ型端子を使用して車体のボディアースにボルト止めします。

注意

エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。

注意

スモールライトが (+) コントロールの場合には必ずリレー (525T) を使用してください。

警告

車両側の信号線をチェックする際には、検針が他の信号線などに接触しないように特に注意してください。回路などがショートし、車両部品、本製品に損傷を与える可能性があります。

G その他の配線の接続

ESP搭載オプションとの接続

ESP搭載オプションを併用する場合は、ESPハーネスを本製品のESP2ポートに差し込みます。配線の取付方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

リモコンの同調 (登録) 特許

ヒント

【リモコンの同調について】
 ホーネットシリーズのリモコンは、リモコンごとに異なったIDコードを使用しています。(コードは7378系6976兆通り以上) お客様が新しくリモコンを使用する場合には、リモコンのIDコードをメインユニットに登録する作業が必要になります。この登録作業を「リモコンの同調」といいます。製品を初めて取り付けた時、新しいリモコンを増設する時には、必ず以下の手順で使用するすべてのリモコンの同調を行なってください。

《同調の手順》

- ① ホーネットのメインハーネス (電源線があるハーネス) を抜きます。
- ② 数秒時間をおいて、メインハーネスを差し込みます。
- ③ 5秒以内に (電源投入音「ビッピー」が鳴る前) リモコンの▶ ボタンを押します。
- ④ 確認音「ビツ」が鳴ったらボタンをはなし、再度リモコンの▶ ボタンを押します。
- ⑤ 確認音「ビツッ」が鳴ったらボタンをはなし、再度リモコンの▶ ボタンを押します。
- ⑥ 確認音「ビービ」が鳴ったらボタンをはなし、そのまま待ちます。
- ⑦ 約5秒後に、自己診断終了の確認音「ビッピー」が鳴ります。
- ⑧ 設定終了です。

※各操作を5秒以内に行なわないと、同調が完了せずに設定を終了します。最初からやり直してください。

工場出荷時のリモコンの登録状態	アドレス1	アドレス2	アドレス3	アドレス4
	リモコン1	リモコン2	空き	空き
リモコン3を同調	アドレス1	アドレス2	リモコン3	空き
リモコン4を同調	アドレス1	アドレス2	リモコン3	リモコン4
リモコン5を同調	アドレス1	アドレス2	リモコン3	リモコン4

リモコン5を登録すると、最初に同調をしたリモコン1が追い出されます (押し出し式)。

注意

- 5個目のリモコンを設定した場合には、最初に設定されていたリモコンのIDコードが押し出されます。
- リモコンを紛失した場合は、リモコンのすべての登録を抹消するため、残りのリモコンで4回同調を行ない、紛失したリモコンのIDを押し出してください。第三者のリモコンでは本製品のコントロールができなくなります。
- それぞれの手順が5秒以内に行なわれない場合は、同調されないまま設定を終了します。

メインユニットのチェック方法

メインユニットの取り付け、配線が終了したら、本体の機能チェックを行なってください。テスト手順は次の通りです。

- 1: オン、オフの確認**
 エンジンを停止し、すべてのドアを開けてください。
 リモコンの▶ ボタンを1秒ほど押すごとに、確認音が鳴ってシステムON/OFFすることを確認してください。
 リモコンの▶ ボタンを1秒ほど押し、確認音が1回鳴る (システムONする) ことを確認してください。
 システム状態/ON 5秒以上待ちます
- 2: ドアトリガーの確認**
 それぞれのドアを開けたとき、サイレンが鳴ることを確認してください。
 リモコンの▶ ボタンを1秒ほど押し、ハイセキュリティ解除をしてください。
 システム状態/ON 5秒以上待ちます
- 3: 2段階衝撃センサーの確認**
 1回ずつフロントガラスを軽く叩いてみてください。この時、警告音 (ビツビツッ...) が7~10回ほど鳴ることを確認してください。
 ※機能設定にて警告音を「ON」に設定する必要があります。
 1回ずつフロントガラスを強く叩いてみてください。この時、サイレン音 (ビービー...) が鳴ることを確認してください。
 ※サイレンモードの感度が高すぎると警告音が鳴らず、即サイレン音が鳴ります。お客様のご希望に応じて感度を調整してください。
 システム状態/ON
- 4: メモリー機能確認**
 リモコンの▶ ボタンによりシステム解除した際に、確認音が4回 (ビツビツッ) と鳴ることを確認してください。
 システム状態/OFF
- 5: パニックモードの確認**
 リモコンの▶ ボタンを1.5秒以上押したとき、サイレンが鳴り出すことを確認してください。
 リモコンの▶ ボタンをもう一度1秒ほど押し、サイレンが止まることを確認してください。
 システム状態/OFF

必ずお読みください

●上記により数回確認を行なった結果、正常動作が確認されなかった場合は、「故障かな? と思ったら」(取扱説明書参照) に従って対策をご確認ください。ホーネットは出荷時に全品正常に作動することを確認しています。
 ※テストの際はガラスやボディ等が破損しないように十分注意してください。